

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

第2回篠山市地元就職応援検討委員会

2 開催日時

平成30年10月1日(月)18時30分から20時00分まで

*受付時間(18時10分から18時20分まで)

3 開催場所

四季の森生涯学習センター 大会議室

4 会議に出席した者の氏名(敬称略)

(1) 委 員 丹後政俊委員長、今西和義副委員長、奥田格、岡澤直樹、池本太三、吉良山ひとみ、増成広造、小島泰輔、内堀幸造(代理:池田みのり)、藤平尚子、山下和秀、原田久人、藤本雅弘、田中慎児、河南秀和

(2) 事務局 政策部長 稲山悟、創造都市課長 竹見聖司
商工観光課課長補佐 麻田英史
企業振興室長 小倉元一、企業振興室主査 北村春恵

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

公開

7 非公開の理由

なし

8 会議資料の名称

①次第

②報告事項資料(資料1)

③協議事項資料(資料2)

9 審議の概要

発言者	審議内容及び発言内容
	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 丹後委員長あいさつ 今日は、第1回委員会での意見をさらに深め、若者の地元就職の応援に向けての課題を共通認識したい。 (議事については、丹後委員長が進行)</p> <p>3. 報告事項 (1) スケジュール確認・第1回委員会の議事録 事務局から、資料1について説明。</p> <p>4. 協議事項 (1) 前回の意見の取りまとめ・課題の抽出について</p>
丹後委員長	<p>第1回の委員会での意見について事務局での取りまとめいただいたとおり(資料2)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後に就職 ・大学等へ進学後に就職 ・その他 <p>に分かれることから、まずは高校卒業後の就職について、議論を進めていきたい。</p>
原田委員	<p>市広報・就職フェア・企業見学などに参加しているが、就職希望につながっていない。4月の丹波篠山幸せしごとフェアには11人と面談し、手ごたえはあったが志望にはつながらなかった。</p>
岡澤委員	<p>昨年、市で立ち上げた「篠山市しごと情報サイト」を見たが、企業の声やハローワークの求人情報など、ガイドブックには載っていない情報も充実している。これをさらに充実させ、高校でチラシを配るなどして、活用を進めるべき。</p>
今西副委員長	<p>高校卒業後の就職には、保護者の意見も大きく影響する。保護者への取り組みも重要である。</p>
藤平委員	<p>少子化が進む中、若者を各企業が取り合っている。都会の大手企業が2次募集し、さらに人材を確保しようとしている。1・2年で篠山に帰ってくる場合もある。都会を経験し、合わなかったと感じる人をターゲットにした。</p>
奥田委員	<p>地元就職をいくらPRしても、本人や保護者が望まないと意味がない。知ってもらうには企業に足を運ばせることが必要ではないか。</p>
山下委員	<p>トライやるウィーク等、学校の授業で体験してもらうが、介護職場はきついイメージがあることが課題。身近な家族等の介護を見て興味を持つ場合もあり、家での教育にも期待している。</p>

吉良山委員	<p>中学校のトライやるウィーク、高校のインターンシップともに体験できるのは1カ所のみ。高校生の価値観は「大手企業がいい」「地元がいい」といった価値観ではなく、自分ができるところを考え業種を選んでいくように思う。企業に足を運ばせる機会が必要と感じる。</p>
池本委員	<p>市内企業所に協力いただき、高校2年生で全員がインターンシップに参加する。H29年度卒業者の就職地は約7割が丹有地区、中でも丹波市の企業へ就職する割合が比較的高い。</p>
河南委員	<p>大阪や東京などの都市要衝で篠山の観光PRイベントが実施されるのなら、篠山出身の大学生や家族、既卒社会人を対象として、就職情報も提供すれば、地元篠山への就労に効果があるのではないかと。</p> <p>また、資料14ページの若手社員への奨学金返済支援制度はいい制度と考えられるので、篠山市においても取扱いを検討されてはどうか。</p> <p>高校でのキャリア教育に関しては、各高校と市行政、市内各企業との連携に工夫の余地があるのでは。</p> <p>例えば、県立篠山産業高校の課題研究発表などに、地元企業の参加を求め、学生が提案した研究発表への積極的な評価を頂くことで、学生諸君のやる気を高め、地元就職志向へのきっかけづくりとなれば、と思う。</p>
山下委員	<p>産業高校のふるさと応援活動で、木製受付机が市に寄贈されている。高校と連携し、事業所に足を運んでもらうきっかけづくりを考えたい。</p>
藤平委員	<p>舞鶴高専の先生が、自社の仕事に興味を持たれ、何度も訪問いただく中で、その生徒を採用することとなった。就職フェアではパンフ説明のみだが、一歩踏み込んで現場を見てほしいし、もっと先生にも興味を持ってほしい。</p>
増成委員	<p>仕事以外に「どこに住みたい」「休みをどう過ごすか」なども子どもの選択肢となっている。都会と篠山暮らしを比較するシミュレーションを示すことも必要だと思う。</p>
田中委員	<p>高校のインターンとは別に職業体験などもしてもらっているが、大学等へ進学したらつなぎとめられない。神戸で就職フェアも行い「篠山で働こう」をPRしている。1度篠山を離れた人に対するPRがどうできるかが課題。</p>
原田委員	<p>大阪本社の事業で、リクナビのインターン募集に10人の応募があった。篠山工場での採用は高卒中心であるが、さまざまな手法で採用に取り組んでいる。</p>
岡澤委員	<p>子どもたちは情報を選択する時代に生きている。子どもたちが具体的に選ぶことができるものを提示することが必要ではないか。①より具体的な情報提供、②体験できる場（企業に足を運ぶ）、③キャリアの積み方や実例（先輩等）について考えてはどうか。</p>
奥田委員	<p>鳳鳴高校では、1年生の総合的な学習の時間に職業研究を行っている。市内企業との関わりが持てることも大切だと考える。</p>

丹後委員長

いただいた意見を再度整理し、後日、各委員に具体的な取り組みの提案を取りまとめる。後日、事務局から依頼をさせていただき、本日の審議を終了します。

5. その他
特になし

6. 閉 会
今西副委員長 あいさつ